

ラトビア月報

【2013年9月，10月】



2013年（平成25年）11月発行
在ラトビア日本国大使館
<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

主な内容

【内政】

- ・外国人投資家・不動産購入者に対する居住許可付与制度の見直し
- ・改正国籍法の施行
- ・ヤウンゼメ＝グレンデ文化大臣の更迭とメルバルデ新大臣の就任

【経済】

- ・ラトビア企業7社が中欧のトップ500企業に選出
- ・個人新規ローン借入れが増加
- ・木材輸出が好調

【外交】

- ・安全保障に関する「リガ会議」の開催
- ・アフガニスタン・ミッションへの派遣任期延長
- ・リンケービッチ外相のアジア訪問
- ・バルト三国首脳会合の開催

【日本との関係】

- ・日本文化行事の開催（切り絵展，日本映画祭，生け花デモンストレーション）

※「ラトビア月報」は，ラトビアにおける政治・経済状況等について，ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料を取りまとめたものです。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです，「在ラトビア日本大使館作成の資料によれば」といった引用は避けていただくようお願いいたします。

【内政】

◆ヤウンゼメ＝グレンデ文化大臣の更迭とメルバールデ新大臣の就任

9月13日、ドンブロウスキス首相は、ヤウンゼメ＝グレンデ文化相の所属政党で連立与党を構成する「ナショナル・アライアンス」に対し、新たな文化相を指名するよう要請した。首相は、大臣交替を求めた理由として、同大臣が、国立オペラ座の代表を17年間務めたジャガルス氏に解雇通告を行うなどしたことで、当国文化関係者との対立をエスカレートさせたことを挙げた。文化相はこれまでの実績を強調しつつ辞職の意向を否定したが、同16日に解任された。

その後、文化相はボルダース法相が兼任していたが、10月31日、メルバールデ新文化相が任命された。同文化相は、文化省副次官、ブリティッシュ・カウンシル・ラトビアのカントリー・マネージャー等を歴任し、前職はラトビア国立文化センター所長を務めていた。

◆違法たばこ製造工場を摘発

9月13日、ラトビア東部バルヴィ市近郊で、違法たばこ製造工場が摘発され、8.5トンの違法たばこ（市場価値71万ユーロ）が押収された。同施設は木材加工工場を装っており、1年近くにわたり違法にたばこを製造していた疑い。これまでにどの程度の製造量があったかは明らかにされていないが、製品は西欧市場に向けたものであるとされ、同施設では5～7人の外国人が働いていたとみられる。

◆ザトレルス前大統領が次期国政選挙不出馬を表明

9月18日、連立与党を構成する改革党の創設者でもあるザトレルス前大統領は、次期国会選挙及び欧州議会選挙に立候補しない意向を明らかにした。前大統領は、国政選挙に出馬しない理由として健康問題を挙げ、欧州議会選挙については、ラトビアで暮らすことを望むことと、欧州議員の政策決定への影響力が限られていることを指摘した。

◆EU加盟の是非を問う国民投票から10年

9月19日、ヴィーチェ＝フレイベルグ大統領（当時）がラトビア国民にEU加盟への賛成票を投じるよう呼びかけた、EU加盟の是非を問う国民投票から10年を迎えた。当時、ラトビアのEU加盟は67%の国民の支持を得たが、SKDS社の調査によれば、現在、EU加盟国であることを前向きに評価する国民は28%のみで、22%は否定的な評価を下している。

◆リガ自由港公社のボーナス制度改定

9月19日、リガ自由港公社（代表取締役：アメリカス・リガ副市长）は、取締役会でボーナス制度の変更を決定した。今後、従業員へのボーナスは年3回までを原則とし、

各ボーナス額は月給額を超えてはならないこととなった。また、CEOのボーナスは契約に定めるのではなく、今後は取締役会で決定される。同公社を巡っては高額な役員報酬などが政府内でも問題視されていた。

◆改正国籍法の施行

10月1日、改正国籍法が施行された。これにより、今後、要件を満たす者はラトビアとの二重国籍が認められる。内務省市民権・移民局は2万2千人余りがラトビア市民権の取得に関心を有しているとし、外交当局はアイルランドでは2万5千人以上が、ロシアでは約2千人が改正法の下で二重国籍を取得し得るとみている。改正国籍法では、EU、NATO、EFTA加盟国や豪州、ブラジル、ニュージーランド国籍を持つ民族的ラトビア人等にラトビアとの二重国籍を認めるもの。また、ラトビアに住む市民権未保持者（主にロシア系）の子のラトビア市民権取得についても要件が緩和された。

◆海外映画のラトビア語字幕テレビ放映を提案

10月2日、国家電子メディア評議会は、海外映画を国内のテレビで放映する際に現在のようなラトビア語への吹き替えではなく、ラトビア語字幕とすることを提案した。これに対し、テレビ業界は視聴者に影響が出る可能性があるとして反対を表明し、視覚障害者団体も批判している。

◆ドゥブロウスキス首相を国民は評価

Latvijas Fakti 社が9月に行った世論調査の結果（10月2日公表）によると、ドゥブロウスキス首相は国民から高い評価を受けており、「評価する」、「どちらかと言えば評価する」の回答を合わせると50.8%に上った。前月に比べ、支持は3.97ポイント上昇し、不支持は3ポイント低下した。前年同時期の調査との比較でも首相への支持は2.4ポイント増加している。

◆レプシェ元首相が新党を設立予定

エイナルス・レプシェ (Einars Repse) 元首相が、新党を12月15日に立ち上げると発表した。「The Association for Latvia's Development」が母体の新党名は、ラトビアの発展・競争力を高めるとの政策目標を反映したものになる予定で、今後決定される。レプシェ氏は2002年11月～2004年3月の間、ラトビア首相を務めた。

◆リガ市公共交通の新運賃を決定

リガ市は、2014年1月1日からリガ市公共交通の運賃改定を行うことを決定した。新運賃は「Rigan card」をあらかじめ取得したリガ市在住者が0.6ユーロ（バス、トラムとも）、それ以外の者は1.2ユーロで、市外在住者にとって、新運賃は現運賃の

0.5ラツツ(約0.7ユーロ)から2倍近い値上げとなる。同制度の導入を巡っては、リガ市外からの通勤者などへの差別的措置であるとして批判の声も上がっており、国会請願のための反対署名も集められている。

◆ロシア語放送テレビ局の番組をめぐる問題

10月4日、バルト三国で主にモスクワ発のロシア語番組を放送するテレビ局PBK(First Baltic Channel)は、リトアニアのいわゆる「1991年1月13日事件」においてソ連軍に責任がある死傷者はおらず、リトアニア当局の挑発行為であるとする番組を放送した。リトアニアのラジオ・テレビ協会は、同事件の事実が歪曲された番組であるとして、PBKに対し抗議・謝罪を要求し、同局は同14日、ヴィリニウス地域行政裁判所から3か月間の部分的放送停止処分を受けるに至った。

◆無料地上波テレビ放送への新規参入

10月9日、ラトビアで無料地上波テレビ放送を実施しているスウェーデンのModern Times Groupが、所有するTV3とLNTをケーブルテレビ等を通じた有料チャンネルに移行することを決定した。これにより、今後同チャンネルの無料地上波放送放映枠は他社に割り振られる。国営テレビ(LTV1, LTV7)による独占ではなく、今後他社の新規参入を検討することとなる見通し。

◆ラトビア人サイバー犯罪容疑者の引き渡し問題

10月10日、米国等で大量のコンピューターに対するウイルス感染行為を行い、銀行口座預金の不正引き出しを企んだとするサイバー犯罪容疑により、昨年12月4日にラトビア国内で逮捕され、リガ中央刑務所に拘留中だったデニス・チャロフスキス(Denis Calovskis)容疑者が釈放された。同容疑者については、米国が当初から容疑者の引渡しを求めていたが、欧州人権裁判所が同裁判所での審理が終結するまで容疑者を米国に引き渡ししてはならないと命じたことで、その後の取扱が注目されていたが、リガでの拘留がまもなく1年となる中、これ以上ラトビア国内で起訴されていない容疑者を拘留することは法的に困難として釈放されたもの。

◆「ソ連軍対独戦勝記念碑」を巡る動き

10月、リガ市内に設置されている「ソ連軍対独戦勝記念碑」の撤去を求める署名数が1万を超えたことにより、国内で政治的対立が再熱している。

ラトビア外務省報道官は、本記念碑の撤去要請が「ロシアの退役軍人・同家族のラトビア国内における社会的保護に関するラトビア・ロシア間の合意」(1995年発効)に抵触することを指摘し、同合意により、ラトビアは国内のロシアの歴史的場所と戦士の墓地の保護・維持について約束し、ロシア側は戦争・鎮圧によりロシア国内で亡くな

ったラトビア人の記念碑・埋葬場所の保護・維持の確保を約束していることを説明するなど事態の沈静化に努めている。

10月22日、ドブロウスキス首相は、記念碑撤去運動がラトビア社会の統合を図ることにはつながらないとの懸念を表明した。

◆ギャンブル関連税の増税

2014年1月1日から、カジノ等に設置されているスロットマシンやテーブルゲーム機に課される税金が10%増額され、それぞれ1台19,008ユーロ、3,456ユーロとなることが明らかになった。政府は、増税により240万ユーロ余りの歳入増を見込んでいるが、業界からは、利益率の低い機種は処分されることになり、結果として政府歳入増にはつながらないとの声が上がっている。

◆農地売買に新たな規制導入

10月24日、土地私有法の改正案が政府内で決定され、今後、農地は引き続き農地として活用される場合のみ売買の対象となる。これにより、今後農地の売買のためには、購入者の歳入庁への経済活動（農業従事）実績登録が要件とされ、農地購入者は過去3年間農業に従事していることも求められる。また、購入者は購入後3年以上、引き続き農地として活用することを自ら証明しなければならない。

◆小規模企業向け法人税の増税

10月29日、小規模企業税法の改正案が政府で決定された。これによると、2015年から17年にかけて同税は15%まで段階的に増税される。年間売上規模が7千ユーロまでの小規模企業には9%の税率が適用され、それ以上の売上げ規模の企業は11%（2015年）、13%（2016年）、15%（2017年）と段階的に増税される。現行の小規模企業税法では、企業の売上高にかかわらず9%の税率が適用されている。

◆外国人投資家・不動産購入者に対する居住許可付与制度の見直し

ラトビアは、外国からの投資誘致、経済回復施策の一環として、2010年7月以降、一定額以上の外国人投資家（主に不動産購入）に対する5年間の居住許可付与制度を実施しており、導入後3年間の居住許可付与件数は6,749に達していた。同制度は不動産セクターを中心に経済回復に寄与してきたが、同居住許可付与制度を利用して居住許可を得た者の多くがロシア人であることもあり、親ロシア政党と対立する連立与党内の右派「ナショナル・アライアンス」から制度廃止要求が出るなど、2014年度予算審議にも支障を来していた。10月10日、連立与党はこの居住許可付与制度を見直すことで合意した。その結果、2017年にかけて、必要投資額の基準を厳しくしつつ、

段階的に居住許可付与件数枠を減少させることとなった。

不動産購入者に対する居住許可付与について、現在は首都リガ市を含む国内主要都市で10万ラツツ（約14.2万ユーロ）以上、他地域で5万ラツツ（約7.1万ユーロ）以上の不動産を購入することが申請要件であったが、今後は不動産購入1件毎に2万5千ユーロを特別基金に別途支払うことが居住許可申請の要件となる。不動産購入による居住許可付与については、最近中国人の関心が特に高まっており、同制度で居住許可を得た中国人は本年1月～9月期だけで186名に達していた。

◆リムシェービッチ中銀総裁が3選

10月31日、国会において、連立与党が支持するリムシェービッチ（Ilmars Rimsevics）中銀総裁が対立候補がない状況で3選された。任期は6年で、2001年の中銀総裁就任後、3期目を務めることとなる。

【経済】

◆銀行業協会による上半期の業績発表

9月3日、ラトビア銀行業協会は、国内各行の今年上半期の業績を発表した。これによると、最も業績が良好だったのはSwedbankで上半期の利益は約3,658万ラツツ（5,205万ユーロ）に達した。以下、ABLV銀行、Rietumu銀行、Citadele銀行、SEB銀行などが好業績を上げた。国内25行のうち、6行のみが上半期に赤字を計上した。

◆第2四半期の経済成長率

9月3日公表のユーロスタット資料により、2013年第2四半期のラトビアの経済成長率は、EU域内で最高の対前年同期比4.3%であったことが明らかになった。EU全体ではゼロ成長、ユーロ圏に限ると0.5%のマイナス成長が記録された。今年第1四半期との比較では、ラトビアの経済成長は0.5%であり、EU全体では0.4%、ユーロ圏では0.3%の成長がそれぞれ記録されている。

◆ラトビア企業7社が中欧のトップ500企業に選出

9月4日、コンサルティング企業Deloitteが中欧のトップ500企業を選出し、リストには昨年より1社多い7つのラトビア企業が含まれた。7社の内訳は、Orlen Latvija（石油製品）、Uralchem trading（肥料）、Latvenergo（電力）、Elko grupa（総合デパート）、Maxima Latvija（スーパーマーケット・チェーン）、Rimi Latvia（スーパーマーケット・チェーン）、Latvijas Gaze（ガス）。

◆ビール業界大手の Aldaris 社がラトビアでの事業を縮小

9月5日、ビールとソフトドリンク製造大手の Aldaris 社（1865年創業、従業員数270）を所有する Carlsberg グループ（デンマーク）は、Aldaris での製造を高品質のビールに特化し、より安価なビールは Carlsberg グループ内の他の工場に集約することを決定した。これによりラトビアでの事業に関連し、従業員の削減が行われる見通し。

◆リガ市が新型バス導入を決定

9月13日、リガ市の公共交通を担う公営企業 Riga Satiksme 社は、7,580万ユーロを投入し、ポーランドの Solaris 社から175台の新型バスを導入することを決定した。導入される新型ディーゼルバスは、冷暖房、防犯カメラ、情報提供モニターなどを備える。12年間の使用を予定しており、1台当たりの車両価格は、18メートル型のバスが31万8千ユーロ、12メートル型は24万2千ユーロ。交通局が125台のトロリーバスをチェコの Skoda Electric 社から購入した直近のケースでは、1台当たりの価格は80万8千ユーロだった。

◆Swedbank の経済成長予測

10月23日、Swedbank が経済成長予測を公表した。2013年の経済成長予測は4.3%に据え置き、2014年は労働関連減税にインパクトがないとして、前回予測の4.7%から4.3%に下方修正した。なお、2015年成長予測は4.2%。4%台の成長はEU域内では最高水準だが、政府が掲げる中長期的な経済成長水準（2020年までにEU加盟国平均水準に到達）には届かない見通し。

◆個人新規ローン借入れが増加

10月27日公表の財政資本市場委員会の資料によると、2013年上半期の新規ローン残高は前年同期との比較で17%増加し、1億ラツツ（1.42億ユーロ）強に上がった。住宅ローンのみならず、消費者ローンなどにも幅広く増加が見られる。新規ローンの増加は経済成長トレンドの裏付けであると専門家は分析している。

◆林業界の輸出が好調

10月27日、今年1月～8月期のラトビア林業セクターの輸出高は8億7400万ラツツ（12.4億ユーロ）余りに達し、前年同期に比べ8.4%増加したことが農業省林業部の資料で明らかになった。特に木材輸出は7億5千万ラツツ（10億6千万ユーロ）強で、対前年同期比86.3%増であった。主な輸出先はスウェーデン、英国、ドイツで、それぞれ輸出の10%余りを占めている。

【外交】

◆リンケービッチ外相のスウェーデン訪問

9月2日～3日の間、リンケービッチ外相はスウェーデンのビスビー（ゴットランド島）を訪問し、年次の北欧・バルト8か国（NB8）外相会合に出席した。同会合では、シリアにおける化学兵器使用を強く非難し、国連安保理が適切な対応を取るよう要請した共同声明及びEU東方パートナーシップに関する声明が採択された。

◆EUグルジア監視団への派遣要員の任期を延長

9月3日、政府はEUグルジア監視団に参加しているラトビア国境警備官2名と警察官の派遣任期を2014年9月まで延長することを閣議決定した。

◆イヴァニシヴィリ・グルジア首相の来訪

9月6日、イヴァニシヴィリ・グルジア首相が来訪し、ベルズィンシュ大統領、アーボルティニャ国会議長、ドゥブロウスキス首相とそれぞれ会談した。ドゥブロウスキス首相との会談では、グルジアのEU及びNATOとの緊密な関係に向けての努力を支持がラトビア側から表明された。また、グルジア側は、11月にリトアニアで開催予定のEU東方パートナーシップ首脳会合でのEUとの連合協定イニシャルへの意欲が示された。

◆ミラノビッチ・クロアチア首相の来訪

9月6日、ミラノビッチ・クロアチア首相が来訪し、ベルズィンシュ大統領、アーボルティニャ国会議長、ドゥブロウスキス首相とそれぞれ会談した。ドゥブロウスキス首相との会談では、クロアチア側から早期のシェンゲン・ゾーン加盟、ユーロ導入への強い意欲が示された。両国首相は、経済協力、貿易、文化、観光等の諸分野における二国間協力を拡大していくことで一致した。

◆安全保障に関する「リガ会議」の開催

9月6日～7日の間、リガにおいて年次国際会議である安全保障に関する「リガ会議（Riga Conference 2013」（今年で8回目）が開催された。イルヴェス・エストニア大統領、ミラノビッチ・クロアチア首相、イヴァニシヴィリ・グルジア首相、ビルト・スウェーデン外相、シコルスキ・ポーランド外相等、約30か国の政府、シンクタンク等から300人の専門家が出席し、EU及びNATOの経済・安全保障、アフガニスタン復興計画と中央アジアとの協力、EU東方パートナーシップ等に関する幅広い議論が行われた。

◆ロシア国会議員によるバルト三国占領容認発言

9月6日、緊迫するシリア情勢に関連し、ジリノフスキー・ロシア国家院（下院）議員が、「シリアが国連安保理の同意なしで攻撃されるような場合、バルト三国はロシアに占領されるべきである。」と発言したことに対し、ラトビア外務省は同議員の発言は無責任で受け入れられないと強く非難した。その後、ヴィシュニャコフ駐ラトビア露大使は、同議員は野党議員であり、その発言はロシア政府の意見を反映していないと釈明した。

◆ダライ・ラマの来訪

9月8日～11日の間、ダライ・ラマがラトビアに来訪した。滞在中、ダライ・ラマは、リガ市内で講演及び記者会見、ラトビアの有識者及び宗教関係者と非公開の円卓会議を行った。ダライ・ラマは1991年及び2001年にもラトビアを訪問しており、今回で3度目のラトビア訪問となる。ラトビア政府は、中国の領土一体性の尊重、ダライ・ラマは政治指導者ではなくチベットの精神的なリーダーであること、ラトビア訪問は民間団体の企画したものであるなどとし、政府要人との会談は行われなかった。

◆ニーニスト・フィンランド大統領夫妻の来訪

9月9日～11日の間、ニーニスト・フィンランド大統領夫妻はラトビアを国賓として訪問し、ベルズィンシュ大統領、アーボルティニャ国会議長、ドンブロウスキス首相とそれぞれ会談した。ベルズィンシュ大統領との会談では、二国間関係、EU東方パートナーシップ、ユーロ圏情勢、運輸・エネルギー・プロジェクト、地域協力等に関して協議した。

◆サントス・ニカラグア外相の来訪

9月9日、サントス・ニカラグア外相は同国外相級として初めてラトビアを訪問し、リンケービッチ外相と会談した。会談では、各分野での二国間関係強化、EU・中米協力協定（EU—CAAA：EU・中米諸国間の自由貿易協定）発効後の見通し等について協議した。サントス外相は、大西洋・カリブ海が太平洋につながるニカラグア運河の建設を2014年に開始する計画について説明し、同プロジェクトに対する欧州諸国等からの投資に期待を表明した。

◆リンケービッチ外相のアジア訪問

9月12日～13日の間、リンケービッチ外相はミャンマーを訪問し、テイン・セイン・ミャンマー大統領、カン・ゾ・ミャンマー国家計画・経済開発相、タン・チョ・ミャンマー副外相等と会談した。両国高官は経済、教育、観光分野等において関係強化を行うため、投資保護条約及び教育分野における協力協定締結の可能性について触れた。

同月14日～20日の間、リンケービッチ外相はインドを公式訪問した。同外相はハイデラバード、チェンナイを訪問した後、18日～20日の間、首都デリーを訪問した。リンケービッチ外相は、クルシード外相、カウル外務次官と会談し、インド・ラトビア間の二重課税防止条約に署名した。また、同外相は、2014年に予定されているインド大使館の開設、2015年上旬のラトビアのEU議長国等について説明した。リンケービッチ外相は、クマリ文化相、シバル通信IT相等とも会談した。

◆ラトビアにおけるNATO軍共同軍事演習

9月12日～20日の間、ラトビア国防アカデミーにおいてNATO及び平和のためのパートナーシップ諸国（欧州・中央アジア諸国を中心としたNATO未加盟国）16か国から27名の高級将校が参加する演習「Steadfast Pyramid 2013」が行われた。同演習は、指揮官の作戦計画・意思決定の訓練を目的とするもの。

9月23日～27日の間、同様に16か国から27名の高級将校が参加した演習「Steadfast Pinnacle 2013」が行われた。同演習は作戦における指揮官の役割に特化したもの。

◆リトアニアにおけるレール・バルティカ2に関する署名

9月16日、リトアニアにおいてバルト三国、ポーランド、フィンランドの運輸相はレール・バルティカ2の合弁企業設立に関する共同宣言に署名した。これによると、レール・バルティカは標準軌（1435ミリ）により建設され、合弁企業はリガに設立される。また、各国の作業グループは同企業設立に必要な文書を2014年1月1日までに作成しなければならないこととされた。

◆ラトビア人研究者に対するロシアの入国拒否事案

9月18日、ラトビア国際問題研究所のスプルーズ所長が、モスクワで開催される国際会議に出席するため申請したロシア入国ビザ発給をロシア政府に拒否された事案が報道された。同所長への入国拒否は、昨年11月に続き今回が2度目で、同所長の入国拒否は、昨年、ラトビアが2名のロシア人を安全保障上の利益に反する行動をとっているとして入国禁止措置としたことに対する対抗措置と見られている。

◆ベルズィンシュ大統領の北米訪問

9月17日～26日の間、ベルズィンシュ大統領は北米各地を訪問した。同月18日、ベルズィンシュ大統領は、カナダのオタワを訪問し、ジョンストン総督、キンセラ国会上下院議長、ハーパー首相とそれぞれ会談した。その後、トロント、モントリオール、米国のシアトルを訪問し、各地域のラトビア人コミュニティと懇談した。

同月24日、ラトビア大統領はニューヨークで開催中の第68回国連総会で演説し

た。大統領は、シリアにおける人道上の危機、ミレニアム開発目標の達成、EU東方パートナーシップなどについて述べたほか、国連安保理改革の必要性に言及し、ラトビアがより積極的に責任を果たすことを表明し、2014年人権理事会、2025年安保理非常任理事国へのラトビアの立候補に対し支持を求めた。

◆ロシア・ベラルーシの共同軍事演習「Zapad 2013」

9月20日～26日の間、ベラルーシにおいてロシア・ベラルーシの共同軍事演習「Zapad 2013」が実施された。同演習には1万3千人以上の兵士、250台以上の戦車、60機以上の戦闘機及びヘリコプターが動員された。ラトビア政府は、このような軍事演習は、北欧バルト地域の安全保障に悪影響を与えるとの意見を表明した。

◆リンケービッチ外相の訪米

9月22日～29日の間、リンケービッチ外相は米国を訪問し、第68回国連総会に關係する様々な会合に出席した。米国滞在中、リンケービッチ外相は、ジャランディ・チュニジア外相、アズィズ・パキスタン首相顧問（安全保障・外交問題担当）、イクエベ・コンゴ外務・協力相、ハーリド・バーレーン外相、グテレスタ東ティモール外務協力相、ワナ・マウン・ルイン・ミャンマー外相とそれぞれ会談した。

◆コジャーラ・ウクライナ外相の来訪

10月2日、コジャーラ・ウクライナ外相はラトビアを公式訪問し、アーボルティニャ国会議長、ドンブロウスキス首相、リンケービッチ外相とそれぞれ会談した。

外相会談では、二国間關係、EUウクライナ關係、EU東方パートナーシップ首脳会合の準備等について協議され、リンケービッチ外相は、EUウクライナ間の連合協定署名に支持を表明しつつ、ティモシェンコ・ウクライナ元首相の事例に関して問題を解決する必要性につき述べた。

◆リンケービッチ外相のクロアチア訪問

10月3日～4日の間、リンケービッチ外相はクロアチアのドブロフニクを訪問し、年次クロアチア・フォーラムに出席した。本年の議題はエネルギー安全保障で、リンケービッチ外相は、地域インフラ・プロジェクトや市場自由化に関して述べ、エネルギー部門においてEUは南コーカサス及び中央アジア諸国と關係強化をする必要につき指摘した。リンケービッチ外相は、ダーヴトオール・トルコ外相、イエリック・カナダ外務担当國務相とも会談した。

◆ベルズィンシュ大統領のポーランド訪問

10月8日～9日の間、ベルズィンシュ大統領はポーランドのクラクフを訪問し、

アラヨロス・グループの非公式会合（オーストリア，イタリア，ラトビア，ポーランド，ポルトガル，フィンランド，スロベニア，ハンガリー，ドイツの大統領が出席）に出席し，欧州経済危機克服，欧米関係，EU東方パートナーシップ等に関するパネル・ディスカッションに参加した。

また，ラトビア大統領はナポリターノ・イタリア大統領と個別に会談し，二国間関係，EU東方パートナーシップ首脳会合等について意見交換を行った。

◆ティトフ・ロシア第一外務次官の来訪

10月8日，ティトフ・ロシア第一外務次官が来訪し，ピルデゴビッチ外務次官との間で政務協議を行い，2013～2014年の両国外務省間の協力協定に署名した。また，両者は第4回ラトビア・ロシア政府間委員会を11月21日～22日にロシアのエカテリンブルクで開催すると確認し，同会合で2つの政府間協定（国境通過地点に関する協定、航空捜索・救助に関する協定）に署名するための国内手続を完了することで一致した。

◆バルト・ベネルクス外相会合の開催

10月9日～10日の間，リガで年次バルト・ベネルクス外相会合が開催された。リンケービッチ外相，リンケビチュウス・リトアニア外相，パエト・エストニア外相，ティーマンス・オランダ外相，レンデルス・ベルギー副首相兼外相，オリンガー・ルクセンブルク外務省政務局長が出席し，11月にビリニウスで開催されるEU東方パートナーシップ首脳会合，EUの将来，中東情勢等に関して意見交換を行った。また，バルト・ベネルクス諸国の外相は，ゲルマン・モルドバ副首相兼外務欧州統合相と会談し，モルドバがEU加盟に向けて取り組んでいる構造改革に一定の評価を示した。10日，リンケービッチ外相は，オランダ，リトアニアの外相とそれぞれ個別会談を行った。

◆シリアに対するラトビアの支援

10月15日，ラトビア政府はシリアの化学兵器駆除に取り組む化学兵器禁止機関の信託資金及び難民問題に取り組むシリア地域対応計画基金に対し，それぞれ5万ユーロを拠出することを決定した。

◆カリモフ・ウズベキスタン大統領の来訪

10月16日～17日の間，カリモフ・ウズベキスタン大統領は国賓としてラトビアを訪問し，17日，ベルズィンシュ大統領（リンケービッチ外相同席），アーボルティニャ国会議長，ドンブロウスキス首相とそれぞれ会談した。会談では良好な二国間関係，アフガニスタン情勢，北部流通ネットワーク（ラトビアからアフガニスタンまでの輸送網）等について意見交換が行われた。

◆アフガニスタン・ミッションへの派遣任期延長

10月17日、ラトビア軍をアフガニスタンで活動している国際治安支援部隊（ISAF）へ派遣する任期を2014年12月31日まで延長することが国会で可決された。今後も約180名の派遣（年間350名のローテーション体制）が継続される。

◆レヴィチン露大統領補佐官の来訪

10月25日、レヴィチン露大統領補佐官が来訪し、ベルズィンシュ大統領と会談した。両者は両国関係が前向きで建設的な関係にあることで一致し、会談でレヴィチン大統領補佐官は、穀物輸送を含むラトビアの港湾との協力拡大、エネルギー部門における協力、ラトビアへの投資等につき発言した。

レヴィチン大統領補佐官は、リンケービッチ外相、マティース運輸相、マゴニス・ラトビア鉄道総裁、ウシャコウス・リガ市長とも非公式に会談した。

◆ドンブロウスキス首相のノルウェー訪問

10月28日、ドンブロウスキス首相はノルウェーを訪問し、年次の北欧・バルト諸国（NB8）首脳会合に出席した。同会合においてドンブロウスキス首相は、今年下半期にEU議長国を担っているリトアニアの業績を評価し、11月に行われるEU東方パートナーシップ首脳会合の重要性を指摘した。首脳会合ではシリア情勢についても協議された。

◆リンケービッチ外相のモルドバ訪問

10月29日～30日の間、リンケービッチ外相はモルドバを訪問し、ティモフティ大統領、コルマン国会議長、レアンカ首相、ゲルマン副首相兼外務欧州統合相等とそれぞれ会談し、二国間関係、EUモルドバ関係、リトアニアにおけるEU東方パートナーシップ首脳会合等について意見交換を行った。リンケービッチ外相は、モルドバの構造改革を評価し、EUモルドバ間の連合協定署名、必要条件履行後のビザなし渡航制度導入に支持を表明した。

◆バルト三国首脳会合の開催

10月31日、リガ近郊のビリニにおいて、バルト三国の大統領が集う首脳会合が開催された。首脳会合では、鉄道等バルト三国の共同プロジェクト、安全保障、EU東方パートナーシップ、エネルギー政策、ユーロ導入の推進等につき意見交換が行われた。

同会合には、ダイセルブルム・ユーログループ議長（蘭財務相）が招かれ、同議長はベルズィンシュ大統領との会食、ドンブロウスキス首相との会談を行った。

【日本との関係】

◆日本文化行事の開催（切り絵展，日本映画祭，生け花デモンストレーション）

・ 9月18日～25日の約1週間，リガ市内で蒼山日菜氏及び蓑虫氏ほか5名の日本人切り絵作家による切り絵作品展が開催された。期間中，多くの来場者が訪れ，蒼山日菜氏及び蓑虫氏による切り絵のデモンストレーションが行われた際には，来場者から，作品の制作に要する時間，紙の種類等につき多くの質問が寄せられるなど高い関心が示された。

・ 10月3日～6日の4日間，リガ市の映画館「Splendid Palace」において，日本大使館と国際交流基金の共催事業で毎年恒例の日本映画祭が開催された。今年は日本映画8作品（大鹿村騒動記，ハナミズキ，雲の向こう 約束の場所，きみの友だち，悪人，マインド・ゲーム，明日の記憶，劔岳 点の記）が上映され，例年同様，リガ市民に好評を博した。

映画祭のオープニングでは，ラトビアで撮影された2013年のNHK大河ドラマ「八重の桜」の第1話冒頭シーン（アメリカの南北戦争の戦闘シーン）が放映された。この撮影に関するリガ市からの協力についてNHKよりリガ市長宛に感謝状が発出されていたところ，同感謝状が多賀大使よりリガ市代表に手交された。

・ 10月9日，山田みどり氏（池坊）による生け花デモンストレーションがイエルガワ市で，翌10日にリガ市内で開催された。生け花の歴史，作品作りの基本，日本人の花に対する考え方等につき解説を行いながら，次々に作品が仕上げられるさまを，会場を訪れた多くの市民が熱心に見入っていた。

以上

2013年9月の主な出来事

日付	【内政】	【外交】
1日		
2日		ドンブロウスキス首相ポーランド訪問（～4日） リンケービッチ外相スウェーデン訪問（～3日）
3日		
4日		
5日		
6日	安全保障に関する「リガ会議」開催（～7日）	リンケービッチ外相リトアニア訪問（～7日） ミラノビッチ・クロアチア首相来訪 イヴァニシヴィリ・グルジア首相来訪
7日		
8日		
9日		ニーニスト・フィンランド大統領来訪（～11日） サントス・ニカラグア外相来訪
10日		
11日		
12日		リンケービッチ外相ミャンマー訪問（～13日）
13日		
14日		リンケービッチ外相訪印（～20日）
15日		
16日	ヤウンゼメ＝グレンデ文化相解任	
17日		ベルズインシュ大統領カナダ訪問（～20日）
18日		ドンブロウスキス首相モナコ訪問（～19日）
19日		
20日		
21日		アーボルティニャ国会議長リトアニア訪問
22日		ベルズインシュ大統領訪米（～26日） リンケービッチ外相訪米（～29日）
23日		
24日		ベルズインシュ大統領国連総会で演説
25日		
26日		
27日		
28日		
29日		
30日		リンケービッチ外相EU総務理事会出席

2013年10月の主な出来事

日付	【内政】	【外交】
1日	改正国籍法施行	
2日		コジャーラ・ウクライナ外相来訪
3日		リンケービッチ外相クロアチア訪問（～4日）
4日		
5日		
6日		
7日		アーボルティニャ国会議長訪米（～11日）
8日		ベルズインシュ大統領ポーランド訪問（～9日）
9日		バルト・ベネルクス外相会合開催（～10日、リガ）（リンケビチュウス・リトアニア外相、パエト・エストニア外相、ティーママンズ・オランダ外相、レンデルス・ベルギー副首相兼外相出席）
10日		
11日		
12日		
13日		
14日		ガニエフ・ウズベキスタン対外経済関係・投資・貿易相来訪
15日		
16日		カリモフ・ウズベキスタン大統領来訪（～17日）
17日		
18日		ドンブロウスキス首相訪英
19日		
20日		
21日		リンケービッチ外相EU外務理事会、総務理事会出席
22日		
23日		
24日		ドンブロウスキス首相欧州理事会出席（～25日）
25日		レヴィチン露大統領補佐官来訪
26日		ドンブロウスキス首相訪仏
27日		
28日		ドンブロウスキス首相ノルウェー訪問
29日		リンケービッチ外相モルドバ訪問（～30日）
30日		ドンブロウスキス首相訪独
31日	メルバルデ新文化相が就任 リムシェービッチ中銀総裁が3選	バルト三国首脳会合（ラトビア・ビリニ）

ラトビア主要経済指標

1ユーロ = 0.702804 ラツツ (ラトビア中銀レート)

GDP

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	2013 Q2	2013 Q3	出典
名目GDP	百万ラツツ	16,085	13,070	12,784	14,275	15,520	4,019	4,036	-	中央統計局
国民一人当たりGDP	ラツツ	7,386	6,102	6,096	6,939	7,629	-	-	-	中央統計局
GDP実質成長率	%	▲ 3.3	▲ 17.7	▲ 0.9	5.5	5.6	-	-	-	Eurostat

財政収支, 政府債務残高

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	2013 Q2	2013 Q3	出典
財政収支	百万ラツツ	▲ 682	▲ 1,277	▲ 1,040	▲ 489	▲ 194	-	-	-	中央統計局
財政収支対GDP比	%	▲ 4.2	▲ 9.8	▲ 8.1	▲ 3.4	▲ 1.2	-	-	-	中央統計局
政府債務残高	百万ラツツ	3,182	4,803	5,695	6,028	6,309	-	-	-	中央統計局
政府債務対GDP比	%	19.8	36.7	44.5	42.2	40.7	-	-	-	中央統計局

失業率, インフレ率, 月額平均賃金

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	2013 Q2	2013 Q3	出典
失業率	%	5.8	12.8	13.9	11.5	10.5	9.8	8.5	-	中央統計局
インフレ率	%	15.4	3.5	▲ 1.1	4.4	2.3	0.2	0.2	▲ 0.4	中央統計局
平均賃金(グロス)	ラツツ	479	461	445	464	481	493	503	-	中央統計局
平均賃金(ネット)	ラツツ	350	342	316	330	343	356	361	-	中央統計局

海外直接投資(FDI)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	2013 Q2	2013 Q3	出典
海外直接投資残高	百万ラツツ	5,711	5,673	5,752	6,578	7,209	7,798	7,841	-	中央銀行

貿易統計

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	2013 Q2	2013 Q3	出典
輸出(FOB)	百万ラツツ	4,429	3,602	4,695	5,999	6,939	1,655	1,725	-	中央統計局
輸入(OIF)	百万ラツツ	7,528	4,710	5,912	7,719	8,797	2,107	2,127	-	中央統計局
貿易収支	百万ラツツ	▲ 3,099	▲ 1,108	▲ 1,217	▲ 1,720	▲ 1,858	▲ 452	▲ 402	-	中央統計局

日・ラトビア貿易(ラトビア政府統計)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	2013 Q2	2013 Q3	出典
日本への輸出	千ラツツ	15,370	17,595	23,638	24,452	24,328	-	-	-	中央統計局
日本からの輸入	千ラツツ	19,235	6,091	5,245	11,930	9,874	-	-	-	中央統計局
対日貿易収支	千ラツツ	▲ 3,865	11,504	18,393	12,522	14,454	-	-	-	中央統計局

日・ラトビア貿易(日本政府統計)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	2013 Q2	2013 Q3	出典
ラトビアへの輸出	百万円	6,693	2,043	3,458	4,050	4,908	-	-	-	財務省統計
ラトビアからの輸入	百万円	3,599	3,696	4,609	4,587	8,761	-	-	-	財務省統計
対ラトビア貿易収支	百万円	3,094	▲ 1,653	▲ 1,151	▲ 537	▲ 3,853	-	-	-	財務省統計